



DXへの取り組み

オプテックス株式会社
代表取締役社長 上村 透
2023.02.10

目次

- はじめに
- Business DX
- Inner DX
- 人財の強化
- DX管理・推進体制

はじめに

- オプテックスについて
- 経営理念
- グローバル業務改革・ビジネスモデル変革

オプテックスについて

オプテックスは「安全・安心・快適」をコンセプトに、幅広い社会や産業の課題を解決する製品やサービスを提案してまいりました。他社の追従が容易でない高い技術力、世界各国から収集されたデータをもとにしたノウハウの蓄積で圧倒的な差別化とユニークな解決策を提供し、特定分野においてグローバルニッチNo.1を生み出し続けることを目標としています。

オプテックスグループ株式会社

(東証プライム上場 証券コード:6914)

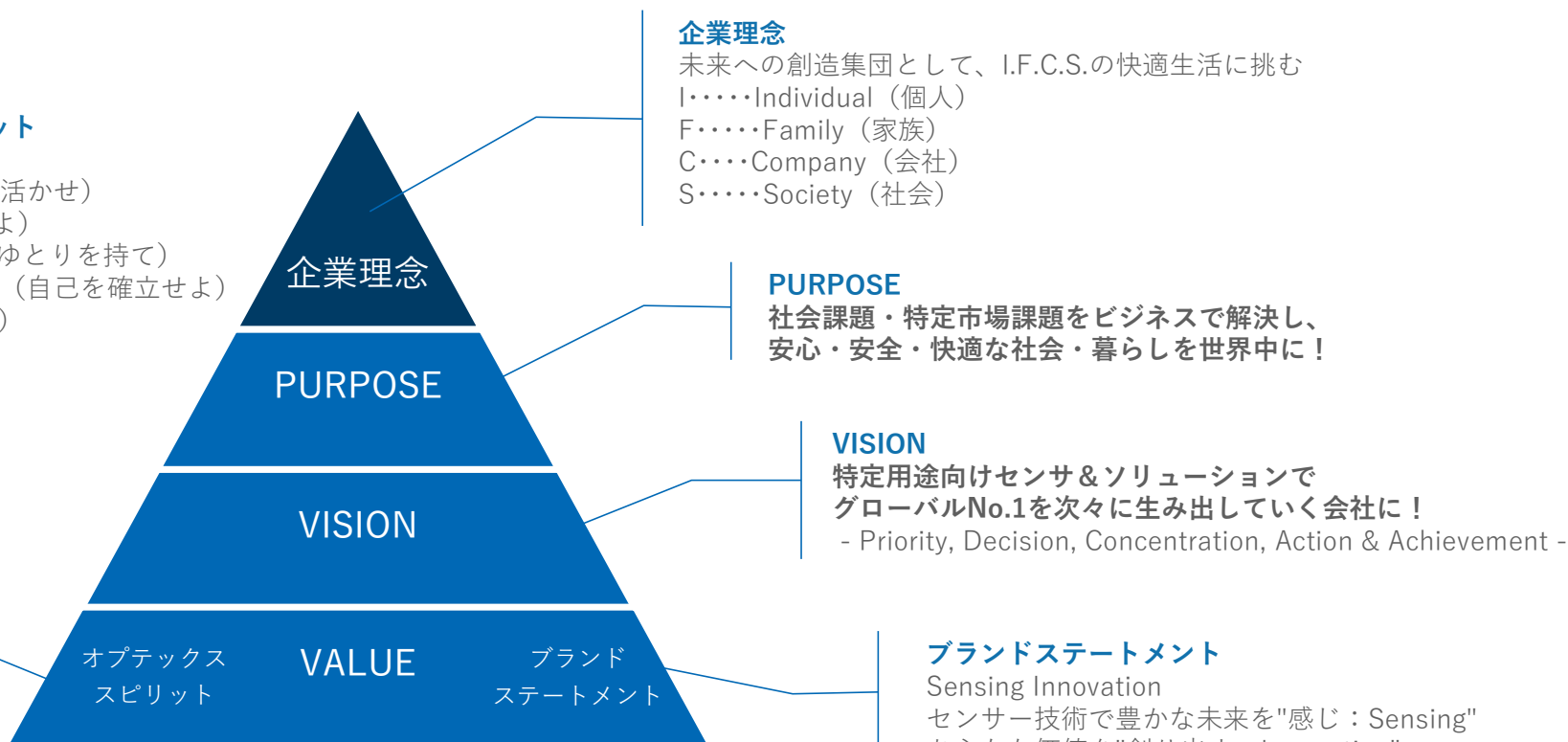


経営理念

オプテックスの使命は、センシング技術を世界の安全・安心・快適な社会づくりに役立て、よりよい未来を築いていくことです。そのために、私たちは、社会の潜在的なニーズや真の課題を見出し、独自のアイデアと確かな技術力で解決手段や新たな価値を提供します。

オプテックス・スピリット

- ・ Creating (創造せよ)
- ・ Outsourcing (外部を活かせ)
- ・ Growing up (成長せよ)
- ・ Being comfortable (ゆとりを持って)
- ・ Establishing yourself (自己を確立せよ)
- ・ Dreaming (夢を持って)



当社におけるDX



オプテックス株式会社は、創業以来磨き続けてきたセンシング技術と使用される環境や現場特有の課題を解決する現場力で、防犯・自動ドア・環境などの分野でグローバルニッチNo.1の製品やサービスを世の中に提供し続けております。

いまやセンサーから得られるデータは、産業の不可欠なファクターとなり、さらにデータに対する価値認識はますます高まっています。ICTやIoT、クラウドの進展、普及により、センサーとインターネットは簡易に繋がるようになり、当社は、今までのモノの提供に加え、センサーデータを利用したソリューション提案型のビジネスモデルに注力しております。


管理の効率化、制御、状況判断、サービス向上といったさまざまなソリューションを構築、運用するパートナーとアライアンスや技術連携を進め、課題解決には「何が必要か」、「センシング要求は何か」など本質のニーズやお客様への価値を模索し、技術とビジネスモデルを繋ぎ、ソリューション・サービスの提供を進めております。

また、製品やサービスのみならず、基幹システムやデジタルマーケティングにおいてもデータ連携を進め、経営と事業の双方でDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進しております。

オプテックスは、安全・安心・快適な社会に役立ち、よりよい未来を創造する集団として、お客様とともにグローバルな成長とビジネスの発展に貢献してまいります。



オプテックス株式会社
代表取締役社長

上村 透 

グローバル業務改革・ビジネスモデル変革



ビジネスモデル変革（ Business DX ）

- ・顧客や社会のニーズに即した、社会課題・特定市場課題を解決する、ソリューション・サービス事業（IoT活用）にビジネスモデル変革
- ・マネタイズ、安全運営に関する取り組み

グローバル業務改革（ Inner DX ）

- ・グローバルに業務のデジタル化・標準化、物流・SCM改革（ERP活用）
- ・営業活動環境、開発環境、リモートワーク環境整備（CRM、PLM、...）
- ・ビジネス環境の激しい変化に対応できるITインフラの構築、セキュリティ強化
- ・経営基盤刷新プロジェクト、など

人財の強化

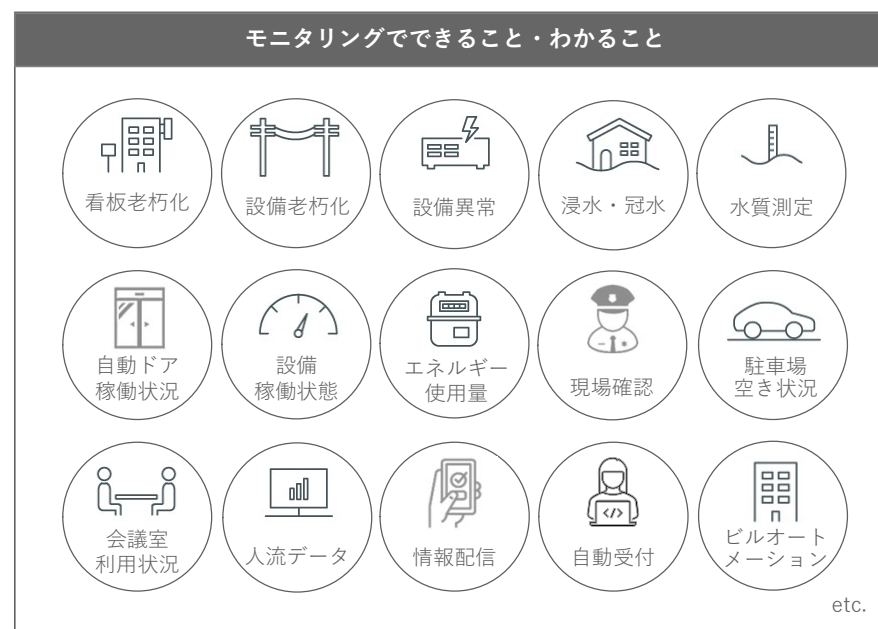
- ・ Inner & Business DX 推進のためのITリテラシー向上、人財育成

Business DX

- 解決したい社会課題
- 活用例のご紹介

解決したい社会課題

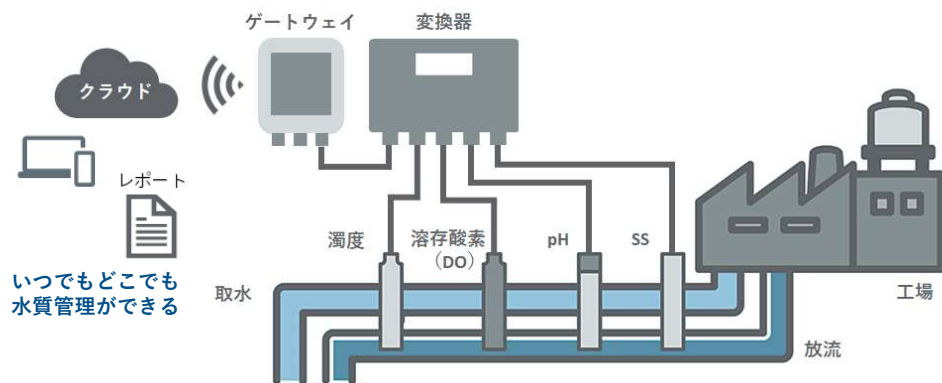
人手不足や働き方改革といった社会環境に対し、IoTを活用した効率化で現場課題と経営的課題を解決します。現在の業務や作業をいかに効率化できるかを重視し、最小限の投資と時間で実現しやすい「簡易モニタリング」や、カメラを利用した「画像確認システム」など、予算や課題に応じたさまざまなソリューションをご提案いたします。



活用例のご紹介

“WATER it” を利用した工場排水遠隔監視

排水監視に必要な各種水質測定センサーの測定データを収集・見える化し、パソコンやスマートフォンで状態を把握できる仕組みをトータルでご提供。収集した水質データは、工場内だけでなく遠隔地からも監視することができ、いつでもどこでも水質管理を行うことが可能です。



スーパーマーケットでの“OMNICITY (オムニシティ)”活用

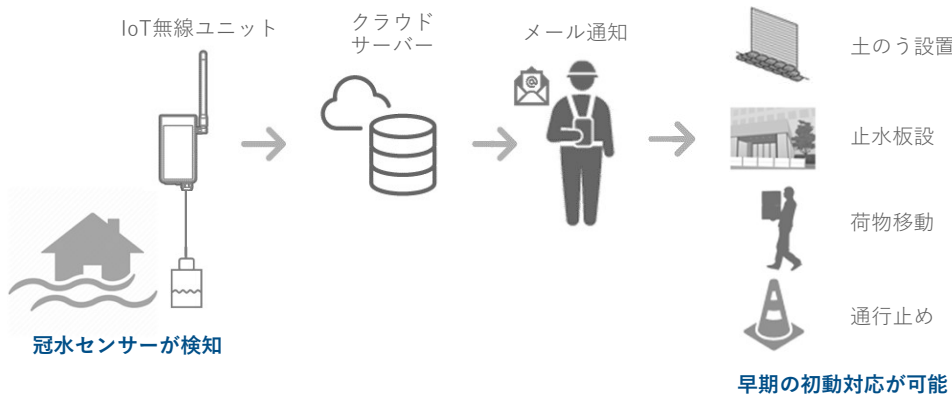
OMNICITYは、Beacon機能を搭載した自動ドアセンサーから通行者のスマートフォンに役立つ情報を配信したり、来店計測を行うサービスとの連携などが可能な情報シェアリングサービスです。スーパーマーケットでは、来店時のベストタイミングにクーポンを配信することにより、顧客満足度と店舗収益性の両方の向上が期待できます。また、来店顧客の分析にも活用できます。



活用例のご紹介

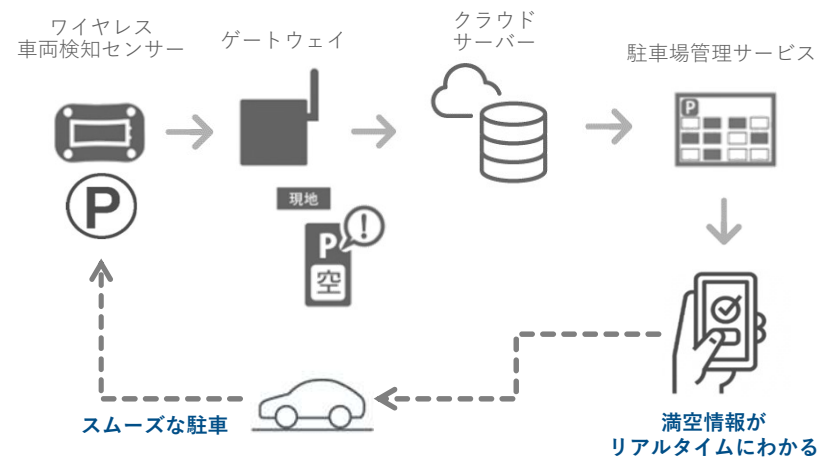
冠水モニタリングによるBCP対策

電池駆動の冠水センサーとIoT無線ユニットを冠水が発生しやすい場所に設置。冠水の発生を防災担当者にメールで通知することで、被害が発生しないうちに、土のうの設置や荷物の移動、避難の呼びかけといった初期対応が行え、被害を最小限に抑えることが可能となります。



駐車情報マネジメント

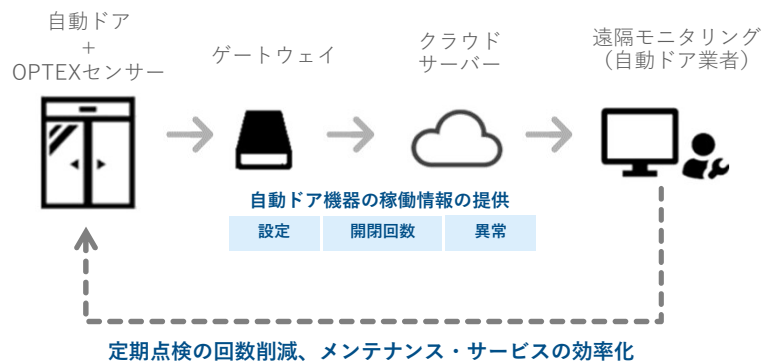
当社の満空管理システムは、センサー & 通信 & クラウド & アプリの技術を組み合わせることで、IoTによる総合的な駐車情報管理システムの構築が可能です。例えばスマートフォンで満空状況の把握や事前予約ができるサービス。事前に満空情報を把握することができ、大規模商業施設や観光地周辺などの渋滞緩和が期待できます。



活用例のご紹介

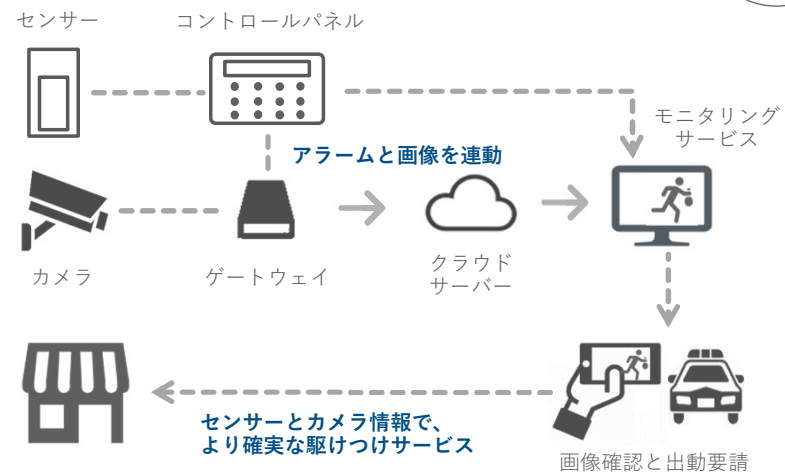
自動ドア遠隔モニタリング

自動ドアから得られるデータ（稼働情報、速度などの各種設定値、エラー情報）を提供できる自動ドアデータプラットフォームを構築しています。収集したデータを活用することで、現場から離れた場所でも自動ドアの利用状況がリアルタイムに可視化でき、機器や設備の予防保全や保守サポートの効率化を図ることが可能となります。



アラームモニタリング+画像監視サービス

センサーが侵入者を検知すると、モニタリング会社に通知され、ただちに画像で侵入の有無を確認。侵入が確認されれば、ボイスワーニングや現場駆けつけ要請するモニタリングサービスに利用されています。セキュリティ用センサーにカメラ画像を加えることで、より確実な状況把握と対処が可能となりました。



Inner DX

- GLOBE G2プロジェクト

GLOBE G2プロジェクト

私たちは、2011年から**GLOBEプロジェクト**と銘打ち、ロジスティクス、業務システム、生産システムの改革・刷新にグループ全体で取り組んでいます。さらに、2018年から **GLOBE G2プロジェクト (Generation2)** として、SAP S4/HANAを国内外すべてのグループ会社 (15社) に導入するプロジェクトが進行中です。



解決したい4つのこと

① 経営指標の可視化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ グループ経営情報の一元化 製品別/グループ別売上の把握、事業別/地域など多くの切り口からの連結管理の実現 ✓ 経営層向けの経営管理・分析データの可視化 ✓ 自社運用が可能な意志決定システム
② グローバル標準化/共通化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各グループの会計業務統一化、共通ルール化 ✓ 国内外で標準化されたメッシュによる収益管理を実現 ✓ マスタ管理、コード体系の統一化 ✓ 連結での過剰在庫情報の削減 ✓ 安全在庫、発注点を考慮した所要量計算
③ 間接業務の合理化/効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 計数管理の省力化(手作業・二重入力の排除) ✓ 需要予測～販売計画の精度向上 ✓ 入荷予定に対する在庫引当処理 (引当効率向上) ✓ 予算管理の改善
④ 変化に柔軟な共通基盤	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ビジネス/事業変化に迅速に対応できる拡張性 (M&A、新会社設立時のサービスイン)

実現したいこと

スピード経営
～ キビキビと新しい事に挑戦し続ける企業に～



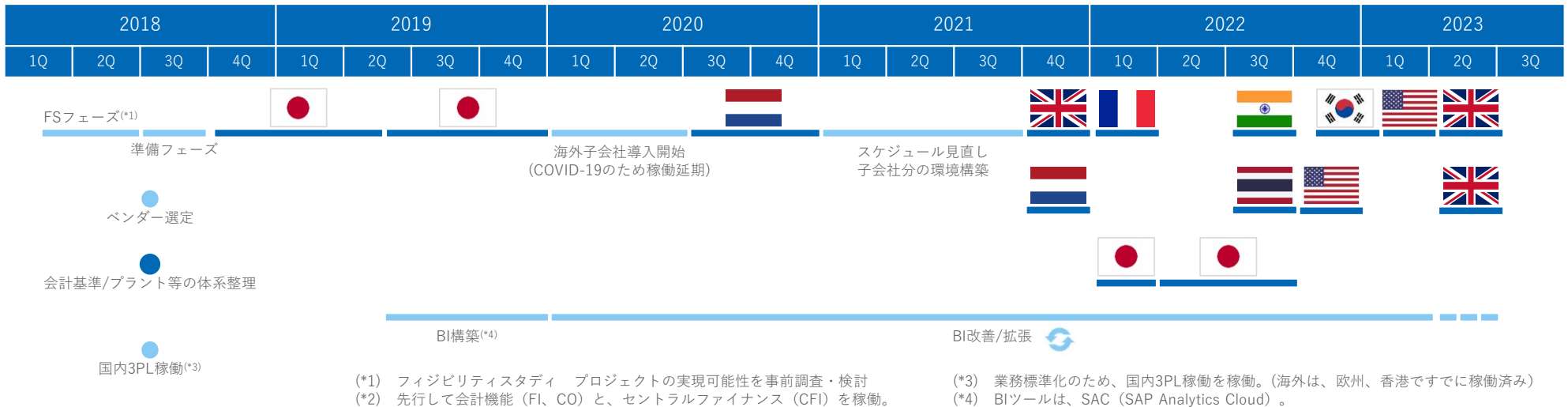
システムのありたい姿

- ✓ 業務プロセス・ビジネススタイルを変革できる
- ✓ 事業拡大への柔軟な対応
- ✓ 10年先も使い続けられる
- ✓ 継続した改善、拡張による間接業務圧縮
- ✓ 法規・法令の遵守とスムーズな対応



GLOBE G2プロジェクト

2018年からスタートした GLOBE G2プロジェクトは、以下のスケジュールにて推進しています。新型コロナウイルス感染症の影響で導入順序の見直しや導入方法の変更等がありましたが、計画通り2023年度後半よりグループ全体が同じ基盤（シングルインスタンス）での運用が始まります。



プロジェクト概要

【期間】 プロジェクト期間：5年 2019年5月より運用スタート

【手段】 業務プロセス改革 / 経営情報の見える化

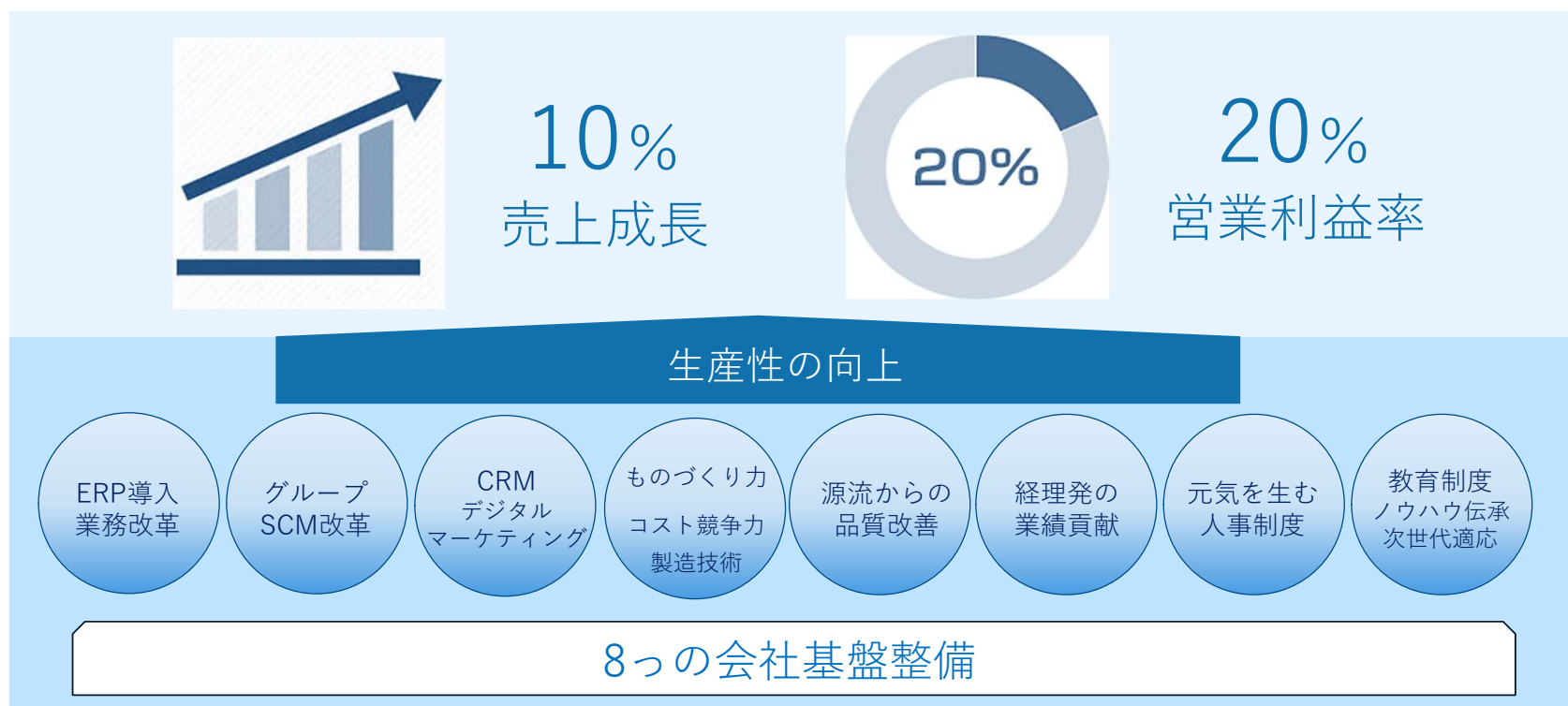
【指標】 連結ベースでの係数情報リアルタイム化 / グループ在庫の可視化と削減 / 業務効率大幅アップ 120人月/年の工数削減

人財の強化

- 中期VISION

中期VISION

私たちは毎年10%の売上成長と営業利益率20%を目標に掲げています。その目標達成に向け、8つの会社基盤を整備し、これらを推進する人財を育成することで生産性を向上させていきます。

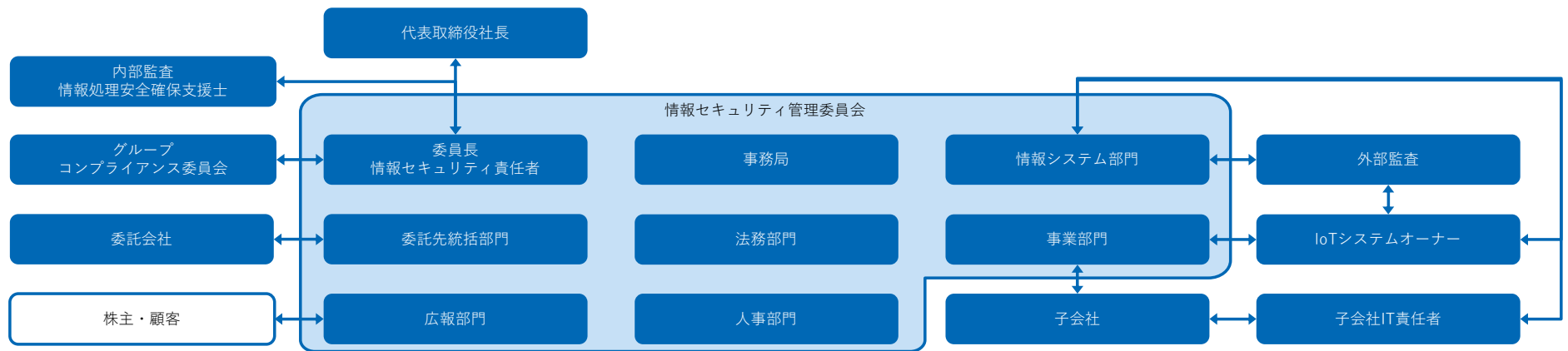


DX管理・推進体制

DX管理体制

代表取締役社長を責任者とする以下の管理体制を構築し、情報セキュリティに係る対策、指導、緊急対応及び報告を行います。

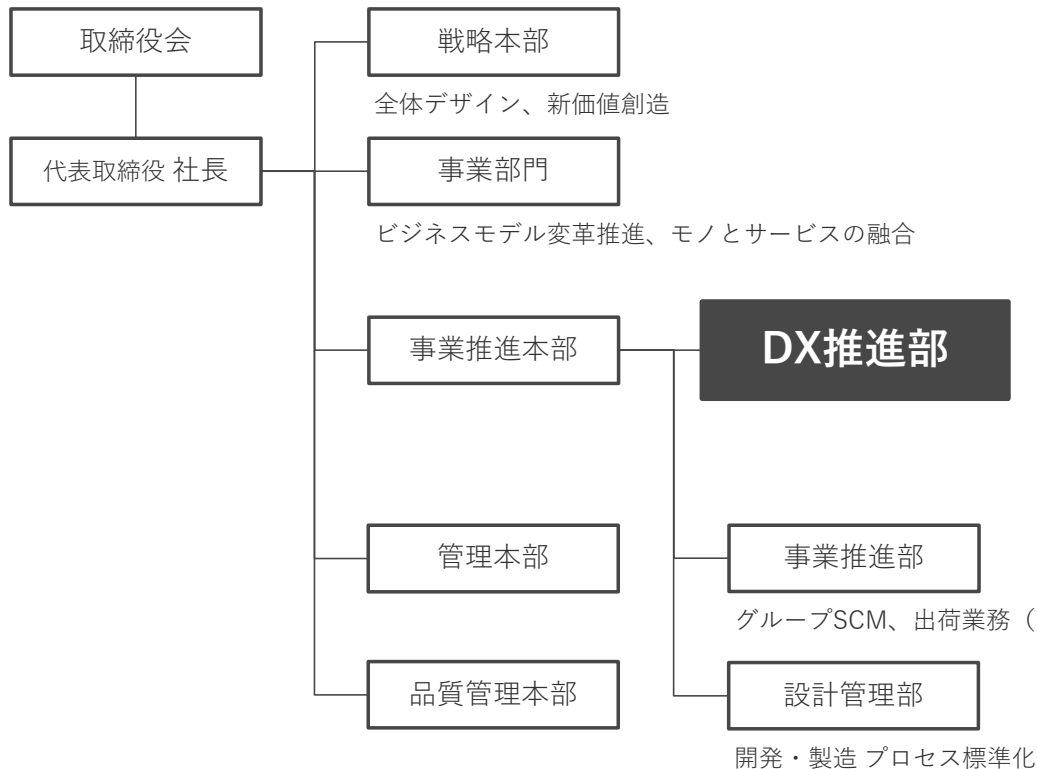
情報セキュリティ管理委員会は定期的開催され、管理・運用が適切に実施できていることを確認します。サプライチェーンにおけるセキュリティ対応も重要です。委員会メンバーである委託先統括部門から、展開されます。



情報セキュリティ管理体制

DX推進体制

企業にとって、DX推進が経営課題の最も重要な課題の一つです。弊社の情報システム部門の部署名は、DX推進部です。ミッションの全てがDX推進であることを表しています。また、担当取締役が情報セキュリティ責任者となり、経営と一体感を持った取り組みを進めています。



DX推進部のミッション

◎ Business DX推進

製品・サービスを支えるIT基盤の運用・維持・最適化の実現

◎ Inner DX推進

スピード経営を実現するIT基盤の構築

◎ ITリテラシー向上を含めたセキュリティ強化

安定かつ安全なIT基盤運営とセキュリティ強化

www.optex.co.jp